

動物応用科学科

教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

（令和９年４月１日から施行）

動物応用科学科の卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の達成を目指し、専門及び関連分野の幅広い知識と現実的課題に対応することのできる実践応用力を備え、社会で活躍し貢献できる「動物応用実践的ジェネラリスト」を育成するため、以下に掲げる考え方にに基づき、教育課程を編成・実施する。

１．教育課程の編成に関する基本的な考え方

- (1) １年次を中心に「自然科学」「複合」等の基礎学力を身に付ける「基礎教育系科目群」を置き、その後段階的に「専門基礎科目群」を配当する。また、早期から大学の学びと社会との接続を意識できる科目を設置する。
- (2) １年次及び２年次を中心に、動物の形態、生理、行動等の基本的な知識・技能、態度・志向性、思考力を養うとともに、修学意欲や社会貢献意識を醸成するため、「専門基礎科目群」を配置する。
- (3) 動物応用科学における学びの広がり認識するとともに、実践的な対応力を養うため、１年次及び２年次を中心に「専門基礎科目群」を置く。また、専門領域を横断的に学修するため、２年次以降を中心に「専門共通系科目群」を配当する。
- (4) ３年次以降を中心に、拡大及び深化している動物応用科学の諸領域について、研究室に所属しながらバランス良く学ぶことで、専門的な知識・技能を実践に生かすことのできる応用力・問題解決能力を養うため、動物の生命活動とその資源利用・開発に関わる「動物生命科学系科目群」として、遺伝子から、細胞、組織・臓器、微生物、個体、群集及び生態系までの種々の段階における生命現象を、保全・増殖、機能解析、利用・開発及び人と動物に対する安全の観点から、分子から個体までの多様なレベルで総合的に学ぶ科目を置く。また、人と動物のより良き共生関係を目指す「動物人間関係学系科目群」として、伴侶動物、介在動物、野生動物及び産業動物を対象に、人の福祉や教育現場に活用できる動物の特性とその応用及び人と動物と環境の共生について学ぶ科目を配当する。
- (5) 地域社会や産業界など学外との連携や協力を通じて、視野を広げ、考えを深める対話的な学びの能力を養う科目を配当する。
- (6) 獲得した知識や技術を統合し、課題の解決と新たな価値の創造につなげる能力や主体的かつ自律的な態度を育成するため、卒業研究等の科目を設置する。

２．教育課程の実施に関する基本的な考え方

- (1) 各授業科目について、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従い、設

計する。また、到達目標、授業計画、実施方法、成績評価基準等を明確にするとともに、シラバスを通じて周知する。

(2) 主体性、自律性及び他者との協働性を育成するため、アクティブ・ラーニング（双方向型授業、グループワーク、発表、PBL 等）を積極的に取り入れるなど、授業形態及び指導方法を工夫する。

(3) 社会的な課題に対応するための問題発見・解決能力、実践力及び社会に発信する力を涵養し、動物応用科学の専門性に基づいた社会貢献の在り方を培うため、最先端の実験手法やそれに基づいた動物機能性製品、新たな動物飼育法、社会調査及びフィールドワークを重視するとともに、データ解析、レポート作成及び口頭発表を取り入れるなど、卒業研究の授業形態及び指導方法を工夫する。

(4) 知識及び技術を効果的かつ効率的に修得させるとともに個別最適な学びを提供し、学修意欲の向上や、ICTリテラシー修得による卒業後のキャリアの選択肢を広げるため、ICTを活用する。

3. 学修成果の評価に関する基本的な考え方

別に定めるアセスメントプランに基づき、学修成果の把握及び検証を行い、教育、学修支援等の改善・向上を図る。